



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月9日

上場取引所 東大

上場会社名 ユニチカ株式会社

コード番号 3103 URL <http://www.unitika.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 安江 健治

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 石川 省二

TEL 06-6281-5721

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	89,281	△1.0	4,517	14.6	2,243	16.9	1,149	86.4
22年3月期第2四半期	90,226	△16.3	3,942	54.0	1,918	55.2	616	18.2

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第2四半期	2.42	—	—	—
22年3月期第2四半期	1.30	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円	銭	
23年3月期第2四半期	271,984	—	24,602	—	7.7	43.96	—	
22年3月期	277,196	—	23,519	—	7.2	41.70	—	

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 20,898百万円 22年3月期 19,823百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	190,000	4.3	11,500	34.6	7,000	56.4	6,000	97.6	12.62	—

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、[添付資料] 4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 475,969,000株 22年3月期 475,969,000株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 550,275株 22年3月期 546,728株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 475,420,056株 22年3月期2Q 475,532,558株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足資料	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、企業業績が改善基調で推移するとともに、猛暑により個人消費にも一部上振れ要因が見られましたが、アジア向け輸出の頭打ちや、自動車、家電など耐久消費財購入に係る景気刺激策の効果が一巡したことなどを背景として、景気回復のペースは鈍化しました。今後も、内需回復に力強さが見られない中、経済政策の効果が徐々に薄れていくとともに、為替変動などのリスク要因もあり、景気はさらに減速傾向を強める懸念が高まっております。

このような状況の下、当社グループは、今年度が2年目となる中期経営3カ年計画『改革'11』に掲げる施策展開に基づき、全社的には、固定費圧縮を柱とする構造改革を引き続き推進するとともに、繊維事業など構造改善部門において事業運営の見直しに注力する一方、高分子、機能材など強化事業を中心として販売改善を図ってまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は89,281百万円（前年同期比944百万円減）、営業利益は4,517百万円（同574百万円増）、経常利益は2,243百万円（同324百万円増）、四半期純利益は1,149百万円（同532百万円増）となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

事業別の概況は次の通りです。

【高分子事業】

フィルム事業では、包装用フィルムは、国内のナイロンが引き続き伸び悩んだものの、海外子会社の収益が改善するとともに、ポリエステルが需給逼迫の中で差別化品の拡販が進み、増販傾向が続きました。一方、工業用フィルムは、電子部品、粘着材料など好調な需要に支えられ、販売量を大きく伸ばしました。また、全体として原燃料価格の高騰に対して価格改定を推進しました。この結果、事業全体で増収、利益は横ばいとなりました。

樹脂事業では、当第2四半期末時点では、エコカー補助金終了などによる受注への影響も見られましたが、期全体を通じて、自動車用途、電機・電子用途の好調な販売に支えられました。また、当社独自のポリアリーレート樹脂「Uポリマー」が、事務機器用途、精密機器用途などで販売が堅調に推移するとともに、ナイロン樹脂の携帯情報端末向けが伸長、エステル価格の改定も進み、収益に貢献しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

不織布事業では、スパンボンドは、建設・土木分野がやや弱含みでしたが、カーペット分野を中心として輸出が大きく伸長するとともに、農業・生活資材分野が堅調に推移しました。綿スパンレースは、化粧雑貨、産業用ワイパーなどが好調に推移しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

バイオマスプラスチック「テラマック」は、引き続きフィルム、樹脂、不織布、繊維の各分野について積極的に展開しており、包装用フィルム、シート分野を始めとして、自動車用途、電機・電子用途、各種雑貨用途などへの採用も進んでおりますが、当第2四半期は景気低迷や為替変動による欧州輸出の落ち込みの影響を受け伸び悩みました。

以上の結果、高分子事業の売上高は33,080百万円、営業利益は4,974百万円となりました。

【機能材事業】

機能材事業では、ガラス繊維は、引き続き建築不況の影響によりビル、建物等の建材用途が苦戦しましたが、環境用途、電機・電子用途は堅調に推移しました。ICクロスは、回復基調にあった国内需要、輸出に期後半陰りが見られ、販売価格の低迷により採算が悪化しました。活性炭繊維は、業務用空調用途や家庭用浄水器用途がやや落ち込みましたが、廃液処理用途や自動車のVOC除去シート向けが堅調に推移しました。また、ガラスビーズは、公共事業削減の影響で道路用が低調でしたが、工業用、反射材用が堅調に推移しました。

以上の結果、機能材事業の売上高は7,543百万円、営業利益は810百万円となりました。

【繊維事業】

繊維事業は、産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸が建設・土木用途を中心に好調に推移するとともに、ポリエステル短繊維も不織布用途を中心に荷動きが堅調でした。また、ビニロン繊維が、欧州市場での販売が低迷するとともに、新興国市場での新規開拓により販売量が増加したものの、価格競合や為替変動の影響などにより採算面で苦戦しました。

衣料繊維事業では、ユニフォームがワーキング分野での需要回復が顕著となるとともに、インナー・スポーツ用途の機能素材や婦人衣料関連も順調な荷動きに終始しました。全体的には昨年からの構造改善により売上は縮小傾向にあるものの、採算の改善が進みました。

以上の結果、繊維事業の売上高は38,280百万円、営業利益は40百万円となりました。

【その他】

環境事業では、公共事業や民間設備投資が縮小傾向にある中、引き続き厳しい受注環境が続くとともに、メンテナンス分野での受注遅れもあり売上が若干減少しましたが、強みのある水処理分野への事業の集中や更なるコスト削減などにより、採算の改善が見られました。

生活健康事業では、健康食品市場全体が伸び悩む中、セラミド、アラビノースなどの食品機能素材やハナビラタケ関連商品は概ね堅調に推移しました。メディカル事業では、医用材料分野では、循環系カテーテルの新規商品の販売が伸長するとともに、酵素・診断薬分野では、主要顧客への販売が復調するなど、全体として堅調に推移しました。

一方、マンション販売など不動産関連事業の収益が落ち込みました。

以上の結果、その他の売上高は10,376百万円、営業損失は18百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前期末に比べ5,212百万円減少し、271,984百万円となりました。これは、主としてたな卸資産が減少したことによります。負債は、前期末に比べ6,295百万円減少し、247,381百万円となりました。これは、主として仕入債務及び借入金が減少したことによります。純資産は、前期末に比べ1,082百万円増加し、24,602百万円となりました。これは、主として利益剰余金が増加したことによります。

また、キャッシュ・フローの状況については次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益に減価償却費を加えたキャッシュ・イン・フロー及びたな卸資産の減少等により、2,733百万円の資金の増加（前年同期比3,302百万円減）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴い2,161百万円を支出したことなどにより、1,553百万円の資金の減少（前年同期は1,541百万円の資金の減少）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の削減により、2,383百万円の資金の減少（前年同期は2,025百万円の資金の増加）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ1,351百万円減少し、18,809百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期の業績は、概ね当初の計画通り推移しました。従いまして、平成22年5月14日に公表しました通期の連結業績予想の修正はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

一部の連結子会社では法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理の原則・手続の変更)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益は6百万円、経常利益は8百万円、税金等調整前四半期純利益は160百万円減少しております。

(表示方法の変更)

連結損益計算書関係

前第2四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めて表示していた「投資有価証券評価損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「投資有価証券評価損」は2百万円です。

連結キャッシュ・フロー計算書関係

営業活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券売却損益（△は益）」は、当第2四半期連結累計期間において、金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めております。なお、当第2四半期連結累計期間の「その他」に含まれている「投資有価証券売却損益（△は益）」は0百万円であります。

また、財務活動によるキャッシュ・フローの「配当金の支払額」は、当第2四半期連結累計期間において、金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めております。なお、当第2四半期連結累計期間の「その他」に含まれている「配当金の支払額」は△0百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,008	20,199
受取手形及び売掛金	42,367	39,361
商品及び製品	25,840	28,262
仕掛品	15,192	16,676
原材料及び貯蔵品	4,111	3,920
その他	4,182	5,336
貸倒引当金	△204	△175
流動資産合計	110,499	113,581
固定資産		
有形固定資産		
土地	104,573	104,452
その他（純額）	48,798	50,280
有形固定資産合計	153,372	154,732
無形固定資産		
のれん	47	90
その他	655	630
無形固定資産合計	702	720
投資その他の資産		
その他	8,063	8,741
貸倒引当金	△653	△579
投資その他の資産合計	7,409	8,161
固定資産合計	161,484	163,615
資産合計	271,984	277,196

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,213	24,971
短期借入金	73,962	77,668
1年内返済予定の長期借入金	37,348	31,436
1年内償還予定の社債	200	400
未払法人税等	466	322
賞与引当金	1,113	1,085
工事損失引当金	19	1
完成工事補償引当金	16	29
事業構造改善引当金	855	1,118
その他	10,473	11,597
流動負債合計	146,668	148,631
固定負債		
長期借入金	79,560	83,875
退職給付引当金	4,952	4,318
役員退職慰労引当金	71	170
その他	16,129	16,681
固定負債合計	100,713	105,045
負債合計	247,381	253,676
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,798	23,798
資本剰余金	1,661	1,661
利益剰余金	△3,238	△4,734
自己株式	△54	△54
株主資本合計	22,166	20,670
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△343	△429
繰延ヘッジ損益	△4	3
土地再評価差額金	2,452	2,799
為替換算調整勘定	△3,372	△3,219
評価・換算差額等合計	△1,268	△846
少数株主持分	3,704	3,695
純資産合計	24,602	23,519
負債純資産合計	271,984	277,196

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	90,226	89,281
売上原価	73,136	72,568
売上総利益	17,089	16,713
販売費及び一般管理費	13,147	12,196
営業利益	3,942	4,517
営業外収益		
受取利息	103	92
受取配当金	72	72
投資有価証券売却益	164	—
持分法による投資利益	4	7
その他	795	563
営業外収益合計	1,140	735
営業外費用		
支払利息	1,834	1,820
出向者人件費	627	580
その他	702	609
営業外費用合計	3,164	3,009
経常利益	1,918	2,243
特別利益		
固定資産売却益	14	293
収用補償金	108	—
特別利益合計	123	293
特別損失		
固定資産処分損	369	213
投資有価証券評価損	—	431
事業構造改善費用	273	206
その他	545	627
特別損失合計	1,188	1,479
税金等調整前四半期純利益	853	1,056
法人税、住民税及び事業税	297	388
法人税等調整額	△49	△507
法人税等合計	247	△118
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,175
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△11	26
四半期純利益	616	1,149

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	853	1,056
減価償却費	3,311	3,087
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	111	134
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	△1,859	△263
支払利息	1,834	1,820
投資有価証券売却損益 (△は益)	△164	—
売上債権の増減額 (△は増加)	2,592	△3,081
たな卸資産の増減額 (△は増加)	7,700	3,655
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,202	△2,701
その他	△45	622
小計	8,132	4,330
利息及び配当金の受取額	192	415
利息の支払額	△1,879	△1,809
法人税等の支払額	△409	△202
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,036	2,733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	13	△161
投資有価証券の取得による支出	△19	△10
投資有価証券の売却による収入	332	15
有形固定資産の取得による支出	△1,830	△2,161
有形固定資産の売却による収入	27	850
その他	△65	△86
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,541	△1,553
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,568	△3,603
長期借入れによる収入	16,680	16,087
長期借入金の返済による支出	△15,856	△14,449
社債の償還による支出	△200	△200
配当金の支払額	△2	—
その他	△163	△218
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,025	△2,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	391	△148
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,912	△1,351
現金及び現金同等物の期首残高	9,275	20,160
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,187	18,809

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	高分子事業 (百万円)	環境・機能 材事業 (百万円)	繊維事業 (百万円)	生活健康・ その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	29,194	10,969	38,491	11,571	90,226	—	90,226
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	758	25	188	1,469	2,441	(2,441)	—
計	29,952	10,995	38,679	13,040	92,668	(2,441)	90,226
営業利益又は営業損失 (△)	3,981	507	△615	1,155	5,029	(1,086)	3,942

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

I 海外売上高（百万円）	10,916
II 連結売上高（百万円）	90,226
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.1

（注） 売上高（内部売上高及び振替高を除く）が連結売上高の10%以上であるセグメントはありません。

[セグメント情報]

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	33,080	7,543	38,280	78,905	10,376	89,281	—	89,281
セグメント間の内部売上 高又は振替高	15	9	86	111	994	1,105	△1,105	—
計	33,096	7,553	38,367	79,016	11,371	90,387	△1,105	89,281
セグメント利益又は損失 (△)	4,974	810	40	5,825	△18	5,806	△1,289	4,517

- (注) 1. その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,289百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
 該当事項はありません。

4. 補足資料

1. 業績及び23年3月期業績予想（連結）

（百万円）

			売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	21/3	年 間	209,584	7,766	3,337	△ 13,983
		22/3				
		第2Q	90,226	3,942	1,918	616
		年 間	182,239	8,543	4,476	3,036
	23/3	第2Q	89,281	4,517	2,243	1,149
		年間(予想)	190,000	11,500	7,000	6,000
前年比較	第2Q	△ 945	575	325	533	
	年間(予想)	7,761	2,957	2,524	2,964	

2. セグメント情報（連結）

（百万円）

			高分子	機能材	織 維	その他	消去・全社	連 結
当期実績	22/9 (実績)	外部売上高	33,080	7,543	38,280	10,376	—	89,281
		構成比(%)	37.1	8.4	42.9	11.6	—	100.0
		営業利益	4,974	810	40	△ 18	△ 1,289	4,517
		構成比(%)	110.1	17.9	0.9	△ 0.4	△ 28.5	100.0
	23/3 (予想)	外部売上高	68,500	16,000	78,000	27,500	—	190,000
		構成比(%)	36.1	8.4	41.1	14.5	—	100.0
		営業利益	10,600	2,000	600	1,800	△ 3,500	11,500
		構成比(%)	92.2	17.4	5.2	15.7	△ 30.4	100.0

3. 設備投資実施額・減価償却費（有形固定資産）・研究開発費・有利子負債・金融収支・正従業員数（百万円、人）

		設備投資 実施額	減 価 償却費	研 究 開発費	有利子 負債(期末)	金 融 収 支	正従業員数 (人)
21/3	年 間	8,215	7,264	4,394	194,744	△ 3,486	5,437
21/9	第2Q	1,843	3,210	1,923	197,567	△ 1,657	5,250
22/3	年 間	3,566	6,592	3,866	193,380	△ 3,438	5,037
22/9	第2Q	2,521	3,004	1,820	191,071	△ 1,655	4,937
23/3	年間(予想)	5,061	6,280				

4. キャッシュ・フロー（連結）

（百万円）

		営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物の 期 末 残 高
21/3	年 間	4,977	△ 7,419	△ 505	9,275
21/9	第2Q	6,036	△ 1,541	2,025	16,187
22/3	年 間	14,286	△ 2,683	△ 1,175	20,160
22/9	第2Q	2,733	△ 1,553	△ 2,383	18,809